

Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

「未来の学校」事業

先進的・先端的な研究開発に取り組む実践校を指定し、長野県高校教育をけん引する新たな学びの場、学びの仕組みを構築する。

5年間研究開発に取り組み、検証・評価を行うとともに、成果の普及につとめる。

国際的な教育プログラムの長所を生かした

【飯田風越独自のカリキュラムや学びの指導・評価方法を研究開発する】

とともに、学びの成果を活かしながら、

【海外大学進学を実現するためのプログラムと支援体制を構築する】。

国際バカロレア(International Baccalaureate)



国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラム。

国際バカロレア（IB：International Baccalaureate）は、1968年、国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置された。世界共通の国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施しています。

DP (Diploma Programme)

【3, 340校（国内：38校）】

16-19歳

所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）が取得可能。原則として、英語、フランス語又はスペイン語で実施。

DPのカリキュラム

各グループから1科目ずつ選択し、計6科目を2年間で履修。

6科目のうち、3～4科目を上級レベル（HL,各240時間）その他を標準レベル

（SL,各150時間）として履修。

なお、日本語DPでも、6科目中2科目は、英語等で履修する必要がある。

DP資格の取得には、上記を全て履修し、外部評価（国際バカロレア試験等）及び内部評価を通じて、原則として45点満点中24点以上を取得することが必要。配点は、6科目につき各7点（計42点）、3つの必修要件で計3点。

| グループ名 | 科目例 |
|-------------|--|
| 1 言語と文学(母語) | 言語A: 文学、言語A: 言語と文学、文学と演劇 [※] |
| 2 言語習得(外国語) | 言語B、初級語学、古典語学 |
| 3 個人と社会 | ビジネス、経済、地理、グローバル政治、歴史、心理学、環境システム社会 [※] 情報テクノロジーとグローバル社会、哲学、社会・文化人類学、世界の宗教、 |
| 4 理科 | 生物、化学、物理、デザインテクノロジー、環境システムと社会 [※] コンピュータ科学、スポーツ・運動・健康科学 |
| 5 数学 | (旧カリキュラム・2020年11月の試験までの実施) 数学スタディーズ、数学SL、数学HL、数学FHL (新カリキュラム・2021年より試験実施) 数学 Analysis(HL)、数学 Analysis(SL) 数学 Application(HL)、数学 Application(SL) * 新カリキュラムは日本語でも指導可能 |
| 6 芸術 | 音楽、美術、演劇、ダンス、フィルム、文学と演劇 [※] |

課題論文(EE: Extended Essay)：履修科目に関連した研究分野について個人研究に取り組み、成果を4,000語(日本語の場合は8,000字)の論文にまとめる。

知の理論(TOK: Theory of Knowledge)：「知識の本質」について考え、「知識に関する主張」を分析し、知識の構築に関する問いを探究する。批判的思考を培い、生徒が自分なりのものの見方や、他人との違いを自覚できるよう促す。最低100時間の学習。

創造性・活動・奉仕(CAS: Creativity/Activity/Service)：創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、無報酬で自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組む。

Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

大まかなMiraiの職員年間スケジュール

委員会

学年・教科・職員

【1学期】

5月 実施計画提出
8月上旬 合同連絡会

【2学期】

9月上旬 次年度所要経費提出

【3学期】

1月 成果報告会
3月 報告書提出

【1学期】

6・7月 計画を立てる
8月 準備

【2学期】

9月 実践準備
10・11月 実践
12月 まとめ

【3学期】

1・2月 次年度準備
3月 引継ぎ

2学期に各実践を行います。
詳細は決まり次第お伝えしますが、**実践の詳細を決める作業からなるべく多くの先生方に参加して頂けるように計画を進めたいと思います。**

Keyword 『ループリック』

学習到達状況を評価するための評価基準

知識・技能などペーパーテストで確かめやすい学力以外の、**思考力・学習に取り組む態度などを評価することが得意。**

これを使用して学ぶことは、生徒自身が自分がいま何を学んでいるかを認知できる力（**メタ認知力**）を育てることもつながります。

※評価基準を一覧表にしたものを「ループリック表」といいます。

国際科研究室に委員会本部を置いています。
木曜日の5・6時間目に打ち合わせをしています。
4～5月中旬は昨年の資料を確認したり実施計画を作成したりする作業に追われていました。
今は**校内での活動を6月から始める準備**をしています。

国際バカロレア：IB(International Baccalaureate)について

動画 QRコード

職員会議で紹介した動画
(YouTube)のQRコード
です。ご覧ください。



実際に国際バカロレアのカリキュラムで大学に入学した生徒のユーザーです。ご覧ください。



IBの学習者像と新学習指導要領

IBが育てる10の学習者像

- ・ 探究する人
- ・ 知識のある人
- ・ 考える人
- ・ コミュニケーションができる人
- ・ 信念を持つ人
- ・ 心を開く人
- ・ 思いやりのある人
- ・ 挑戦する人
- ・ バランスのとれた人
- ・ 振り返りができる人



共通している

新学習指導要領が目指す資質能力

- ・ 生きて働く「知識技能」の習得
- ・ 未来の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」
- ・ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

目指す資質能力が共通しています。
そして、IBは何十年も前からこれらを使役としてカリキュラム編成を作成・検証を繰り返しています。
そのノウハウの中に、本校に取り入れられるものが無いか探しています。

※「IBの学習者像」は、IBの使命を具体化したもの。(裏面)



IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探求します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

学校案内パンフレット原稿より

『国際的な教育プログラムを研究する高校』

県立高校「未来の学校」実践校に指定されました（令和2～6年）

国際的な教育プログラムについて研究し、国際社会で活躍できる資質・能力を育成する教育課程を開発するとともに、海外大学進学希望者のためのプログラムを構築することを目標にしています。

- ・国際社会で活躍できる資質や能力の育成
- ・新たな時代における「生徒につけたい力」の明確化
- ・新たな学びの指導・評価方法の開発と共有
- ・海外進学支援体制等、幅広い進路選択への対応



具体的には3つのプロジェクトに分かれます

国際社会で活躍できる資質・能力を育成する教育課程を開発する

『F-スタイル』の開発（F-教育課程 清水先生
F-学習指導 小松先生

- ・IB認定校視察
- ・IBの要素を取り入れた授業実践

海外大学進学希望者のためのプログラムを構築する

『F-留学指導』の開発 F-留学指導 山田先生

などを通して『F-スタイル』に取り入れられるものを探していきます。

なぜIBについて「研究」するのか

世界が国際バカロレアを推進する意義

- ・グローバル人材育成に有効な手法（課題発見・解決能力、論理的思考力・コミュニケーション能力など）
- ・国際通用性（高卒後、海外大学に直接入学する選択肢拡大）
- ・特徴的なカリキュラム、双方向型授業
- ・国内外の優秀人材の獲得
- ・大学の活性化

文部科学省が国際バカロレアを推進・支援

- ・DPの単位を1条校での単位に読み替え可能
- ・教員養成（特別免許状の授与）
- ・大学入学者選抜におけるIB（DP）スコアの利用
- ・IB推進のためのコンソーシアムを発足
- ・2022年までにIB認定校を200校に増加

国際教養科の今までのノウハウを活かしながら、他校にも開かれたカリキュラムを開発していきます。

風越高校はIBの認定校を目指しているわけではありません。地方の公立高校として「IBのエッセンス」を取り入れ、生徒の資質・能力を育成しようと研究を始めました。

| 番号 | 実施（取組）項目 | 十分な成果 | 前進 | 現状維持 | |
|----|-----------------------------|---|--|--|--|
| 1 | F 教育課程 IBユニットプランナーの研究 | ユニットプランナーについて、全職員が理解し、活用することができる。 | ユニットプランナーについて、半数以上の職員が理解し、活用することができる。 | ユニットプランナーについて、一部の職員のみが理解し、活用することができる。 | |
| 2 | | 担当教員全員がF-単元指導案を作成し、それをもとに授業を行うことができた。 | 担当教員の一部がF-単元指導案を作成し、それをもとに授業を行うことができた。 | 担当教員がF-単元指導案を作成し、それをもとに授業を行うことができなかった。 | |
| 3 | F 進路指導 | 学校設定科目「世界の中の日本」作業部会 | R5年度の開講に向けて具体的な学習内容とシラバスの検討が十分に進んでいる。 | 具体的な学習内容とシラバスの検討が進められているが、進捗は半ばである。 | 具体的な学習内容とシラバスの検討があまり進んでいない。 |
| 4 | | 学校設定科目「アカデミックスキル」作業部会 | R5年度の開講に向けて具体的な学習内容とシラバスの検討が十分に進んでいる。 | 具体的な学習内容とシラバスの検討が進められているが、進捗は半ばである。 | 具体的な学習内容とシラバスの検討があまり進んでいない。 |
| 5 | | 留学講座（生徒） | 生徒に十分に情報提供がされ、多くの生徒が独自企画を含む留学講座に参加している。 | 生徒に十分に情報提供がされ、半数以上の生徒が留学講座に参加している。 | 生徒に情報提供がされているが、留学講座に参加する生徒は少ない。 |
| 6 | | 留学指導講座（職員） | 留学指導の知識やスキルを習得するため、普通科含め多くの職員が講座に参加している。 | 英語科と進路係職員が講座に参加し、留学指導の知識やスキルを習得している。 | 英語科職員のみが講座に参加し、留学指導の知識やスキルを習得する職員は少ない。 |
| 7 | | 海外語学研修 留学希望者コース検討 | R4年度の実施に向けて充実した内容のコースを研修内に設置することができた。 | 研修内にコースを設置することができたが、内容をより充実させる必要がある。 | コースの検討を行ったが研修内に設置することはできなかった。 |
| 8 | | Rubric指導法開発 | 多くの授業で生徒がルーブリックを使用した指導・評価により、主体的に授業に取り組んだ。 | 研究グループ職員がルーブリックを使用した授業を行い、生徒も評価の観点を理解している。 | 研究グループ職員がルーブリックを使用した授業を行ったが、主体的な学びにつながっていない。 |
| 9 | | Rubric研究 | 多くの職員のルーブリックを理解し、ルーブリックを使用した授業を行うことができる。 | 研究グループで研修を行い、ルーブリックを用いた授業単元計画を立てた。 | ルーブリックについて理解している教員は少ない。 |
| 10 | Rubric評価の開発・検証 | 探究学習において、生徒がルーブリック評価に基づき主体的で深い学びにつながった。 | 探究学習において、生徒がルーブリック評価の観点に基づき主体的に学ぶことができた。 | 探究学習において、生徒がルーブリック評価の観点を理解している。 | |

Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

具体的には私は何を？

前回のレポートで「3つのプロジェクトを進める」ことをお伝えしました。

では、具体的に皆さんに何をして頂くのか担当ごとに簡潔にまとめました。基本的に**どれか一つ以上に関わって頂きたい**と思います。

「主に」関わる職員を記載しましたが興味のあるものがあればぜひ共に研究してほしいと思います。係へ声をかけて下さい。

『国際的な教育プログラムを研究する高校』

県立高校「未来の学校」実践校に指定されました（令和2～6年）

国際的な教育プログラムについて研究し、国際社会で活躍できる資質・能力を育成する教育課程を開発するとともに、海外大学進学希望者のためのプログラムを構築することを目標にしています。

- ・国際社会で活躍できる資質や能力の育成
- ・新たな時代における「生徒につけたい力」の明確化
- ・新たな学びの指導・評価方法の開発と共有
- ・海外進学支援体制等、幅広い進路選択への対応



「F-教育課程」担当：清水

主に関わる職員

1学年担任団

主にやること

- ・ユニットプランナーをもとに単元指導案を作成し授業準備を行う（9月）
- ・授業実践（10月・11月）

「F-学習指導」担当：小松

主に関わる職員

2学年教科担当

主にやること

- ・単元指導案を作成し授業準備を行う（7～9月）
- ・実践と振り返り（10～12月）

「F-留学指導」担当：山田

主に関わる職員

担任、国社英職員、進路係、国際教養科運営委員

主にやること

- ・海外大学進学を目指す生徒向けの新学校設定科目「アカデミックスキル」「世界の中の日本」のカリキュラム作成
- ・生徒および職員を対象とした留学講座の案内・企画実施
- ・海外語学研修における留学希望者コースの検討

F-留学指導 活動報告

・4月13日（火）全校生徒アンケートの実施
「海外大学進学に関心がある」生徒**44名**（1年**21名**、2年**17名**、3年**6名** / 普通科**18名**、国際科**26名**）

⇒ Google Classroom “F-Style Study Abroad”立ち上げ

・5月18日（火）マレーシア大学進学セミナーを本校で企画し実施

マレーシアの大学進学のメリットと、指定校推薦枠のある Taylor's Universityについて説明

生徒7名、保護者1名、職員2名が参加



Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

「Think global , Act local !」 ← これは何の言葉か分かりますか？

そうです。本校の「3つの方針」のキーワードですね。

「3つの方針」

1. 生徒育成方針 (ディプロマ・ポリシー DP)
2. 教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー CP)
3. 生徒募集方針 (アドミッション・ポリシー AP)

です。長野県の公立高校は全て公表 (教育委員会HP) しています。

『 Think global, Act local! 』

～長野県飯田風越高等学校 [全日制課程] の「3つの方針」～

(1) 生徒育成方針 (ディプロマ・ポリシー)

[育てたい生徒像]

豊かな人間性と高い教養を持ち、他者と協働し、主体的に将来を切り拓く力と、地域・社会を牽引する資質を持った人物を育てることを目指します。

[育てたい資質・能力]

- 1) 多様性を受け入れ、協働して物事に取り組む姿勢。
- 2) グローバルな視点を持ち、地域・社会の様々な分野で、リーダーシップを発揮できる力。
- 3) 自ら課題を発見し、その解決に向けて自分の考えを構築し、行動する力。

(2) 教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

1) 基礎学力の定着

1年次には、全教科を共通履修し、基礎基本に基づいた確かな学力を養成します。

2) キャリア教育の充実

自らの将来像を思い描き、主体的に将来を切り拓いていくことが出来るよう、キャリア教育の充実を図ります。2・3年次には、興味関心を広げるとともに、希望の進路を実現していくための選択科目を設定します。

3) 探究的な学びの実践

「総合的な探究の時間 (Fの学び)」を中心として、地域や社会に視野を広げ、課題を発見し解決するための力と自らの考えを表現する力を養います。

4) 特別活動の充実

様々な学校行事や生徒会活動に協働して取り組むことで、自主性と主体性を養います。

5) 海外進学 (留学) を視野に入れた選択科目

国際教養科を中心として、海外進学希望者に対する支援体制の充実を図ります。

(3) 生徒募集方針 (アドミッション・ポリシー)

飯田風越高校は、このような生徒を待っています！

- 1) 課題に対して、仲間と協力して取り組むことのできる人。
- 2) 基本的な学力、学習習慣が身についている人。
- 3) 国際社会に大きく羽ばたきたい人。

長野県飯田風越高等学校 [全日制課程] のグランドデザイン

【生徒育成方針】

豊かな人間性と高い教養を持ち、他者と協働し、主体的に将来を切り拓く力と、地域・社会を牽引する資質を持った人物を育てることを目指します。

多様性を受け入れ、協働して物事に取り組むことができる人。

グローバルな視点を持ち、地域・社会の様々な分野でリーダーシップを発揮することができる人。

自ら課題を発見し、その解決に向けて、自分の考えを構築し、行動することができる人。

人間性・コミュニケーション力・主体性・判断力・思考力・創造力・行動力

【教育課程編成・実施方針】

探究的な学びの実践
『Fの学び』
「総合的な探究の時間」を中心として、地域や社会に視野を広げ、課題を発見し解決するための過程と自らの考えを表現する力を養います。

- ・探究的な学びの発表会
- ・地域との連携
- ・ICTの活用
- ・教養を深める各種講演会
- ・教科横断的な学び 等

海外進学 (留学) を視野に入れた選択科目
国際教養科を中心として、海外進学希望者に対する支援体制の充実を図ります。

- ・4技能5領域の強化
- ・海外語学研修
- ・スピーチコンテスト
- ・土曜日特別講義の開設
- ・外国語資格取得の支援 等

キャリア教育の充実
キャリア探究のための様々な取り組みを行います。また2・3年次には、希望の進路を実現するための選択科目を設定します。

- ・学習記録の活用
- ・個人ブースのある学習室
- ・苦手科目克服のための補習授業
- ・定期考査前の放課後学習 等
- ・卒業生による進路講話 ・大学見学
- ・大学模擬授業 ・講座別授業
- ・夏期や平日の補習授業
- ・進路指導室による個別指導 等

基礎学力の定着
1年次には全教科を共通履修し、基礎基本に基づいた確かな学力を養成します。

- ・学習記録の活用
- ・個人ブースのある学習室
- ・苦手科目克服のための補習授業
- ・定期考査前の放課後学習 等

特別活動の充実
様々な学校行事や生徒会活動に協働して取り組むことで、自主性と主体性を養います。

- ・生徒会活動 ・部活動
- ・修学旅行 ・風越祭
- ・クラスマッチ
- ・コーラスコンクール 等

【生徒募集方針】

- 飯田風越高校はこのような生徒を待っています。
- 1) 課題に対して、仲間と協力して取り組むことのできる人。
 - 2) 基本的な学力、学習習慣が身についている人。
 - 3) 国際社会に大きく羽ばたきたい人。

本校の教育活動の土台となるものであり、全ての教育活動 (授業、生徒会活動、部活動など) はこれらの方針、特に生徒育成方針 (ディプロマ・ポリシー) に基づいたものであるべきです。

しかし自戒の念を込めて言わせていただくと、現状ではこれらを意識した授業や生徒会活動はほとんど行われていません。「じゃあ、どんな授業をすれば良いの?」「どういう活動をすれば良いの?」という疑問がわきますね。

Mirai研プロジェクトではそれを解決するためのチャレンジをしていきます!

つまり、育てたい生徒像と資質・能力について私たち職員集団が共通認識を持ち、授業や生徒会などそれぞれがどのように関わっていけばよいのか。そのプログラム (F-スタイル) を作りたいということです。

でも、ゼロから作るのには難しいからIBのプログラムで参考になることを見つけて取り入れよう。というわけです。

新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ（令和2年11月13日）

高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための各高等学校の特色化・魅力化に向けた方策

【1. 各学科に共通して取り組むべき方策】

- (1) 現代的な諸課題に対応し、20年後・30年後の社会像を見据えて必要となる資質・能力の育成
 - (2) 地域の実態に応じた多様な高等学校教育の実現
 - (3) 各高等学校の存在意義・社会的役割等の明確化（スクール・ミッションの再定義）
 - (4) 各高等学校の入口から出口までの教育活動の指針（スクール・ポリシー）の策定
- 「育成を目指す資質・能力に関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」「入学者の受入れに関する方針」（仮称）を策定・公表
- (5) 地域社会や高等教育機関等の関係機関と連携・協働した学びの実現

これを受けて

文部科学省より

新しい時代の高等学校教育の実現に向けた制度改正について(令和3年4月21日)

1. 高等学校改革の全体像
2. 各高等学校の特色化・魅力化に関する制度改正の概要
 - (1) 各高等学校に期待される社会的役割等の再定義
 - (2) 高等学校における「三つの方針」の策定・公表
 - (3) 高等学校と関係機関等との連携協力体制の整備
3. 普通科改革等に関する制度改正の概要
4. 多様な学習ニーズへの対応等を図るための制度改正の概要
5. 高等学校通信教育の質保証を図るための制度改正の概要

() 内を詳しく

長野県は国に先行して「3つの方針」（＋ブランドデザイン）を策定している。来年4月1日からは全国の高校で策定する。ただし、スクール・ミッションについては先行実施していないのでいずれ指示が来るはず。これらは一度決めたら終わりではなく、不断の見直しをしていくもの。

各高等学校の特色化・魅力化【学校教育法施行規則・高等学校設置基準の一部改正、通知事項】

◆各高等学校に期待される社会的役割等の再定義

・高等学校の設置者は、高等学校が下記の「三つの方針」を策定する前提として、各高等学校やその立地する市区町村等と連携としつつ、各高等学校に期待される社会的役割等いわゆるスクール・ミッションを（SM）再定義することが望まれる。

◆高等学校における「三つの方針」の策定・公表

・高等学校は、当該学校、全日・定時・通信制の課程又は学科ごとに以下の方針いわゆるスクール・ポリシー（SP）を定め、公表するものとする。

- (a) 高等学校学習指導要領に定めるところにより 育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)
- (b) 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)
- (c) 入学者の受け入れに関する 方針(アドミッション・ポリシー)

(※) 令和4年4月1日から施行（令和6年度末まで経過措置）

Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

各プロジェクトから報告と夏休み中にお願いしたい事 ※以下敬称略

F-教育課程 (担当: 清水)

報告

- ・ワーキンググループ代表: 丸山
- ・7月5日 1学年担任会にて第1回連絡会

2学期に向けて

- ・風越高校の目指す学習者像についてのF-スタイルの学習指導案・授業計画作成 (F-スタイルユニットプランナーを用いた授業)

F-学習指導 (小松)

報告

- ・ルーブリック実践者調整中
- ・8月23日 第1回研究会 (予定)

2学期に向けて

- ・実践する単元決めとルーブリックの作成準備

F-進路指導 (山田)

報告

- ・「世界の中の日本」WG: 国語: 白田、地歴公民: 勝野
- ・「アカデミックスキル」WG: 山田、岩澤
- ・留学講座

2学期に向けて

- ・視察校選定、視察者決定
- ・新学校設定科目の扱う内容について準備を深めていく
- ・留学講座準備

F-評価 (白田)

報告

- ・ルーブリックを用いた授業についての、生徒へのアンケートを作成中。基準を最初に示すことで学習への意欲や主体性に变化があったか、生徒自身に評価させるものです。

2学期に向けて

- ・「ルーブリック実践メンバー」の先生方が授業の実践にあわせて使えるよう、準備を進めています。

IBワークショップ

IB Virtual Workshop

4月2日～4日

- Theory of knowledge (知の理論)** 山田春樹 (F-進路指導)
- Creativity, Action, Service (創造, 活動, 奉仕)** 清水友輔 (F-教育課程)

5月12日

職員会議にて報告

8月2日～4日

- History (歴史)** 飯田夏望 (2年担任)
- Japanese A: Literature (文学)** 白田ゆうか (F-評価)
- Theory of knowledge (知の理論)** 岩澤美穂 (F-進路指導)

ワークショップ (WS) とは、国際バカロレアにおける教員研修のことであり、WSのセッションに参加すると、研修参加認定証が授与されます。WSの形式はオンライン、対面、グループセッションといった形式があります。WSは研修レベルにより、3つのカテゴリーに分けられ、IBに対する理解度向上と認定プロセスに合わせて、必要なWSを受講していく必要があります。

ワークショップ (WS) のタイムテーブル例
(コーディネータWSの場合)

| TIME/DAY | DAY 1 | DAY 2 | DAY 3 |
|-------------|--|--|---|
| 8:30-10:00 | IB アジア太平洋地域代表による歓迎と導入 セッション 1: 国際バカロレアの概要 ・メンバー紹介 ・ワークショップの目的 ・IBの教育とは ・IB機構の歴史と現状 | セッション 5: 方針と実践 ・学問の誠実性に関する方針 ・入学に関する方針 ・評価に関する方針 ・言語に関する方針 ・特別な支援を必要とする生徒の受入れに関する方針 | セッション 9: DP の中核 ・課題論文(EE) ・知の理論(TOK) ・創造性・行動・奉仕(CAS) |
| 10:00-10:30 | Morning Break | | |
| 10:30-12:00 | セッション 2: 国際バカロレア学習者像と指導と学習の方法 ・学習者と学びのコミュニティー ・指導と学習の方法とは? | セッション 6: 認定・評価までの道のり ・概要 ・認定までの日程 ・提出書類 ・候補校訪問・確認訪問 ・教員研修 | セッション 10: DP の成功への鍵 ・コーディネータの重要性 ・ディプロマ資格と大学受験 ・IB 日本語プログラム |
| 12:00-1:00 | Lunch | | |
| 1:00-2:30 | セッション 3: 学校の理念と国際的な視野 ・IB の理念 ・学校の理念 ・国際的な視野 | セッション 7: 認定・評価までの道のり ・プログラムの基準と実践要綱 | セッション 11: 国際バカロレア・プログラムの推進 ・生徒の確保と維持 ・保護者、理事会への働きかけ |
| 2:30-3:00 | Afternoon Break | | |
| 3:00-4:30 | セッション 4: ディプロマ・プログラム (DP) の概要 ・DP の構造 ・3つの要件 (コア) の重要性 ・カリキュラムと時間制 | セッション 8: オンラインカリキュラム センター(OCC) ・OCC へのアクセス ・プログラムハンドブック | セッション 12: まとめと振り返り ・研修の振り返り ・質疑応答 ・これからの課題 |
| 4:30 | End of the Day | | |

・ワークショップの全てのセッションに参加した人には後日「研修参加認定証」が授与 (ウェブ上で各自に配属) されます。

Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

中間報告会 (8/5)

「未来の学校」計6校を2つに分け、3校ずつZoomで行いました。本校は須坂高校、野沢北高校と一緒にグループに入り各校30分間報告や質疑応答しました。

【発表概要】

1. 目標と取組概要
 - (1) 構想と目標
 - (2) 3つのプロジェクトと令和3年度の目標
2. 今年度(2021年度)の進捗状況
 - (1) F-教育課程
 - (2) F-進路指導
 - (3) F-学習指導
 - (4) その他
3. 当面の課題
 - (1) 生徒の関わり
 - (2) 教員集団の関わり

【頂いた感想・アドバイス概要】

- ・IBのカリキュラムの中から、指導案以外にも論文やエッセイの書き方なども取り入れてみてはどうか。
- ・IBの授業中に学ぶプレゼンの仕方やインタビューの仕方でも取り入れることができるかもしれない。
- ・海外進学についてマレーシアなどのアジアはもちろんヨーロッパにも目を向けてみてはどうか。オランダ、ドイツなど医学部でも100万円程度で学べる所もある。
- ・新科目について、他校がリモート参加できるようなアイデアがあってもよい。
- ・他校へどう発信していくか。
- ・ルーブリックの実践を継続して行ってよい。生徒のモチベーションをあげるには評価につなげる事も考えてみてはどうか。
- ・公立高校は異動があるので、2学期の授業実践等の記録をしっかりと残り、次の先生につなげるようにする工夫が大切になる。
- ・Mirai研レポートを生徒に見せるなどして、Mirai研の活動に生徒をいかに巻き込んでいくか。

委員会の今後の予定

- ・令和4年度予算請求 8月末
- ・実践準備 8月～10月
※早め早めの計画をお願いします。
- ・実践 9月～11月
- ・視察 9月以降
※状況を見ながら声をかけさせていただきます。
- ・最終報告 3月



(1) 構想と目標

構想

「国際的な教育プログラムを研究し、その長所を生かしたカリキュラムや指導法を開発する」
「他校にも開かれた海外大学進学プログラムを構築する。」



目標

F-スタイル
本校に関わる全ての活動の土台となるもの

「3つの方針」「グランドデザイン」の目指す学習者像(豊かな人間性と高い教養を持ち、他者と協働し、主体的に将来を切り拓く力と、地域・社会を牽引する資質を持った人物)を育てるためのプログラム

(1) F-教育課程

- ・新学習指導要領の目指す資質・能力の育成
- ・飯田風越高校の生徒育成方針をいかに教育活動全般に落とし込むのか
- ・研究指定校としての任務
- ・知識つめ込み型教育の問い直し

「目指す学習者像の実現のための概念学習」をお手本に飯田風越バージョンにアレンジした授業実践を行うために・・・

将来的には、行事やクラブ活動等、すべての教育活動での活用を目指す

「教科ごとの学習内容」ではなく、「飯田風越高校の目指す学習者像」が出发点になるような授業

| 単元 | 学習内容 | 学習者像 |
|----|--------------------------|--|
| 英語 | 英語のコミュニケーション能力を育成する | 国際社会で活躍できる資質・能力を育成する |
| 数学 | 数学的思考力や問題解決能力を育成する | 主体的に将来を切り拓く力と、地域・社会を牽引する資質を持った人物 |
| 国語 | 読解力や表現力、コミュニケーション能力を育成する | 豊かな人間性と高い教養を持ち、他者と協働し、主体的に将来を切り拓く力と、地域・社会を牽引する資質を持った人物 |
| 社会 | 社会問題の理解や問題解決能力を育成する | 国際社会で活躍できる資質・能力を育成する |
| 総合 | 総合的な学習の場での実践的な学習を行う | 国際社会で活躍できる資質・能力を育成する |

プレゼン資料より一部抜粋

『国際的な教育プログラムを研究する高校』

県立高校「未来の学校」実践校に指定されました(令和2～6年)

国際的な教育プログラムについて研究し、国際社会で活躍できる資質・能力を育成する教育課程を開発するとともに、海外大学進学希望者のためのプログラムを構築することを目標にしています。

- ・国際社会で活躍できる資質や能力の育成
- ・新たな時代における「生徒につけたい力」の明確化
- ・新たな学びの指導・評価方法の開発と共有
- ・海外進学支援体制等、幅広い進路選択への対応



Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

Miraiプロジェクトと新教育課程【重要point!】

先日、教育課程研究協議会がリモートで開催されました。来年度入学生から適用される、新しい観点別評価に関する話題が取り上げられたと思います。観点は以下の3つ。

「知識・技能」

「思考・判断・表現」

「主体的に学習に取り組む態度」

です。Mirai研のプロジェクトは、もちろん新しい観点別評価に関わってきます。

風越高校の目指す学習者像の10項目はそれぞれ上記の3観点につながっています。つまり、この10項目を意識した指導案作成と授業実践を行うことが、そのまま新しい観点別評価につながります。

しかし、このF-スタイルの指導案はまだ完成とは言えません。今年度は1学年担任団を中心として実践を行い、改善と完成を目指します。

とは言え、来年4月には新1年生の全ての科目で新しい観点別評価が始まります！

(つまり、できれば2学期中、遅くとも来年2月には全ての科目が全ての単元で新しい観点別評価基準を作成している必要があります。急がないと間に合わないかも……。)

新しい観点別評価をしやすくし、教科間の差を無くすための研究です。

Miraiに関わらず学校として進める

そこで、昨年度から始めているルーブリック評価実践です。

特に、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」について従来のテストで点数化が難しい場合は何かしらのルーブリックを使用してABC評価をすることになると思います。

つまり、2学期は全職員がルーブリック作成に関わるため、結果的にMiraiプロジェクトのどれか一つ以上に**関わる**こととなります。実践をまとめるWGの皆さんは、すでに指導案やルーブリックの作成に手を付けて頂いていると思いますが、それ以外の方も自身の担当科目について「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価準備をどんどん進めていきましょう！

IBワークショップ（報告）

IB Virtual Workshop

8月2日～4日

History（歴史）

飯田夏望（2年担任）⇒8月25日報告

Japanese A: Literature（文学）

白田ゆうか（F-評価）⇒9月1日報告

Theory of knowledge（知の理論）

岩澤美穂（F-進路指導）⇒9月8日報告

生徒・保護者版Mirai研レポート 「みんなの未来レポート」を発行します

目的

未来の学校事業について生徒・保護者への周知・広報

配布方法

- 1学年……クラス掲示、配信メール、
+classroomのストリーム（担任から補足説明）
- 2学年……クラス掲示、配信メール（担任から補足説明）
- 3学年……クラス掲示、配信メール（担任から補足説明）
- 保護者……配信メール
- 一般……HP掲示



Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

未来の学校事業 成果報告会（報告）

令和4年1月31日（月）

<第1部> 10時00分から11時50分まで
参加校：松本深志高校、坂城高校、野沢北高校

<第2部> 13時10分から15時00分まで
参加校：飯田風越高校、須坂高校、木曽青峰高校

今年度の報告として、12月の職員会議でのプレゼンテーションと各プロジェクトからの実績報告を行い、最後に全体を通して次年度へ向けての課題を伝えました。

- ・今年度作ったF-styleの枠組みを、実際の学校生活の中で生徒や教員が主体的に取り組むことができるか検証していくこと。
- ・「まずはやってみる」うまくいかなかったら改良してまたやってみるという事を繰り返していこうという姿勢を大切に。生徒、教員ともに実践の記録を残すことと、適切なアンケートやアセスメントについて特に検討すること。
- ・「学習者像を基にした教育活動」を根付かせるために、職員・生徒への情報発信・啓発活動を引き続き行っていくこと。
- ・国際科だけでなく普通科の希望する生徒も留学につながるような仕組みや新たな科目設置ができないか検討していくこと。



構想
「国際的な教育プログラムを研究し、その長所を生かしたカリキュラムや指導法を開発する」
「他校にも開かれた海外大学進学プログラムを構築する。」

↓

F-style

目標 本校に関わる全ての活動の土台となるもの

「3つの方針」「グランドデザイン」の目指す学習者像（豊かな人間性と高い教養を持ち、他者と協働し、主体的に将来を切り拓く力と、地域・社会を牽引する資質を持った人物）を育てるためのプログラム

次年度へ向けて

F-styleの実践・検証・改善

- ・実践あるのみ「まずはやってみる」
- ・学習者像を基にした指導と評価
- ・新学校設定科目を含めた留学に関する指導体制作り

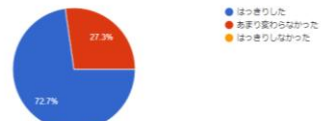
| 単元名 | 大筋の学習目標 | 教科/科目 | 指導教員/指導者名 |
|---------|--|-------|-----------|
| 1. 英語表現 | 英語のコミュニケーション能力を高めること。英語の文化や価値観を理解し、国際的な視野を養うこと。 | 英語 | 白田先生 |
| 2. 世界史 | 世界の歴史を学び、国際的な視野を養うこと。歴史の背景や動機を理解し、現代社会への応用を図ること。 | 世界史 | 勝野先生 |
| 3. 化学基礎 | 化学の基礎知識を学び、実験を通して科学的思考力を養うこと。身の周りの化学現象を理解すること。 | 化学基礎 | 丸山先生 |
| 4. 数学 | 数学の基礎知識を学び、論理的思考力を養うこと。問題解決能力を高めること。 | 数学 | 廣中先生 |

昨年10月以降の活動について

- ・ルーブリックを使った授業実践と生徒アンケートについて
白田先生 国語表現
- ・F-style 単元計画 を使った授業実践について
勝野先生 世界史
丸山先生 化学基礎
廣中先生 数学

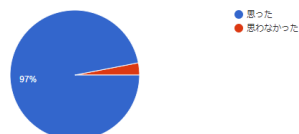
1 ルーブリックがあると、その授業で自分がどんな力をつけたか、何ができるようになったかなどの目標がはつきりました。

33件の回答



5 ルーブリックを意識することによって、より高い目標を達成したいと思いました。

33件の回答



※写真に入る前に、各席の番号を入力し、単位終了後に、両席の番号を入力をお願いします。

Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

新しい観点別評価のためのQ&A

F-style構築の重要なポイントですので、今のうちに新しい観点別評価（ABC評価）について分からないことや不安なことは解消しておきましょう！ また、4月に生徒に規準（基準）を示せるように準備を進めていきましょう。

Q 今までの観点別評価と大きく変わる所はどこですか？

A 要録に記載するようになりました。そして、小学校・中学校と観点別評価をされてきた生徒が入学することになりますので、高校でもしっかり対応しないといけません。教員サイドは戸惑いがあるかもしれませんが生徒にとっては「新しい」ことではありません…。

Q テストや課題を変える必要はあるのですか？

A はい。科目によりますが、多くの座学中心の科目は従来のみだと「知識・技能」しか評価できないのが現状だと考えられます。『思考力・判断力・表現力』『主体的に学習に取り組む態度』を測る機会を作る必要があります。また、『主体的に学習に取り組む態度』を測るものとして課題を期限までに出した回数などで評価することは推奨されないので注意が必要です。これだと「先生が決めた宿題に真面目に取り組む態度」となり真逆の評価になってしまいます。つまり、テストの内容を見直すことはもちろんですが、課題の出し方や評価の仕方も根本から発想を転換する必要があります。

Q 授業内テストは一斉実施できないので不公平になるのでは？

A 確かに、今までの一斉テストと同様なものを授業内テストで実施すると、後からやる講座の人は事前に問題を知って準備できるので公平ではありません。従って、pointは課題の内容です。「**事前に内容を知らせておく**」「**準備に2週間程度かかる**」ものが適しています。このpointは、『主体的に取り組む態度』を測るという観点からも大切です。この様な課題であれば一斉実施しなくても問題はありませんし、各自で主体的に準備をすることが必要になります。また、『思考力・判断力・表現力』を深くはかるという観点からも、一夜漬けや2,3日で結果が変わってしまう課題はそもそも不適正な課題となります。

※今までも授業の中で実技テストを行ってきた科目はありますが問題無く実施していたと思います。

Q パフォーマンステスト（実技テスト）であっても一斉実施でないと不公平になるのでは？

A 確かに、パフォーマンステストであっても、その場で内容が指定されるような形式だと、後からやる講座が有利になります。やはり「**事前に内容を知らせておく**」ということが大切です。

Q それでも教科（科目）の特性から一斉実施でないと不公平になる課題しか作成できない場合は？

A その場合は、成績に含めない事をあらかじめ伝えたくて「**プレテストとして実施**」して下さい。定期考査と同じ形式や難易度の問題で授業内テストを実施し生徒に現状を把握させます。そして、期末考査に向けて主体的な学習のきっかけを作ったり、教員側では授業内容や定期考査内容の微調整に活用します。

次号はルーブリックについて特集します。

Mirai研レポート

国際的な教育プログラムを研究する高校

ルーブリック 評価規準(基準)表のためのQ&A

観点別評価と同様、こちらでもF-style構築の重要なポイントです。観点別評価（ABC評価）のために避けては通れません。分からないことや不安なことは解消しておきましょう！ また、こちらでも4月に生徒に示せるように準備を進めていきましょう。

Q ルーブリック（評価の規準、基準を表にしたもの）はなぜ必要なのでしょう？

A 要録に3つの観点それぞれABCの3段階で評価を記載するために必要です。「テスト点で90点以上なら全ての観点がA、60点以上は全てB」のように、観点別に評価せずまとめて付けてしまえばルーブリックは必要ありません。しかし、全員全ての観点が同じ評価というのは現実的ではありません。特に『主体的に学習に取り組む態度』についてはテストの点から評価するのは困難ですのでルーブリックが必要になります。

Q そもそもルーブリックがよくわからないのですが？

A 日本語にすると評価規準(基準)表となります。どうすればAなのか、どうすればBなのか示すものです。形式は基本的に自由です。風越高校としては、できるだけMirai研の提案している「F-ルーブリック」の形や要素を取り入れてほしいと考えています。具体的にはシラバスに合わせて『A+、A、B、C』の4段階を基本にして作成してみてください。データ「教員共有→05教務係→観点別評価→F-styleルーブリック」

| | | | |
|--------------|-------------------------|---------------|------|
| 令和4年度 | 2学年 物理基礎(物理基礎+物理 6単位選択) | 単位数 | 2単位 |
| 単元名 | ②様々な物理現象とエネルギーの利用 | 単元の時間数 | 32時間 |

| 評価項目 | A+ | A：活用目標 | B：習得目標 | C | 評価方法 | |
|-------------|--|------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|--|
| | 期待している以上である | 十分に満足できる | おおむね満足できる | 努力を要する | | |
| 知識・技能 | 運動とエネルギー、観察・実験について基本的な知識・技能を身に付けている | 独自の力でほとんど記入できる | 教科書・参考書を参照すれば、ほとんど記入できる | 他人のアドバイスをないと記入できない | ・課題確認テスト(小テスト) ・レポート(基本知識・技能) | |
| | 運動とエネルギーについて様々な視点から理解している | 解法が分からない他人にアドバイスをできる | 独自の力でほとんどの問題を解くことができる | 教科書・参考書を参照すれば、ほとんどの問題を解くことができる | 他人のアドバイスをないと問題を解くことができない | ・定期考査の半分を知識・技能の問題とする(難易度の設定は9割超:A+, 8割超:A, 6割超~8割:B, 6割以下:Cを目安とする) |
| 思考力・判断力・表現力 | 科学的に探究し、その結果を正しく記述できる | 複雑な事象について探究し、論理的に記述することができる | 観察・実験などの計画・実行が独自の力でほとんどできる | 観察・実験などについて、科学的に探究し正しく記述できる | 観察・実験などについて、科学的に探究したり正しく記述したりできない | ・定期考査の半分を思考力・判断力・表現力の問題とする(難易度の設定は9割超:A+, 8割超:A, 6割超~8割:B, 6割以下:Cを目安とする) |
| | 積極的に考えを深めたり、発言やレポートで発信できる | | 積極的に考え、レポートなどの記入ができる | 独自の力で考え、レポートなどの記入ができる | 他人のアドバイスをないと記入できない | ・課題確認テスト(小テスト) ・実験レポート(記述) |
| 学習態度 | 科学的に探究しようとする態度が身に付いており、学びを振り返り、次の計画や学びに活かすことができる | 他人の気が付かない観点で自分の考えを記述することができる | 調べた情報や自分の考えを正しく人へ伝え、次の学びに活かすことができる | 調べた情報や自分の考えを正しく人へ伝えることができる | 伝えたい内容が他人に伝わらない | ・授業振り返りシート及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述) |